

第17回

インフォメーションミーティング

平成16年度決算概要

平成17年度の見通し



常陽銀行

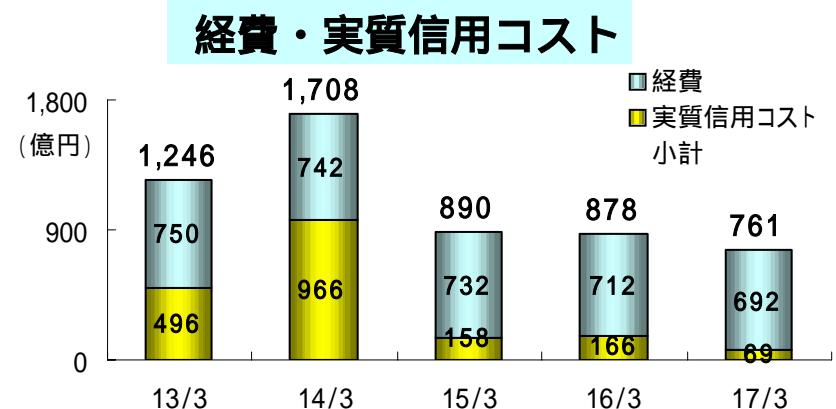
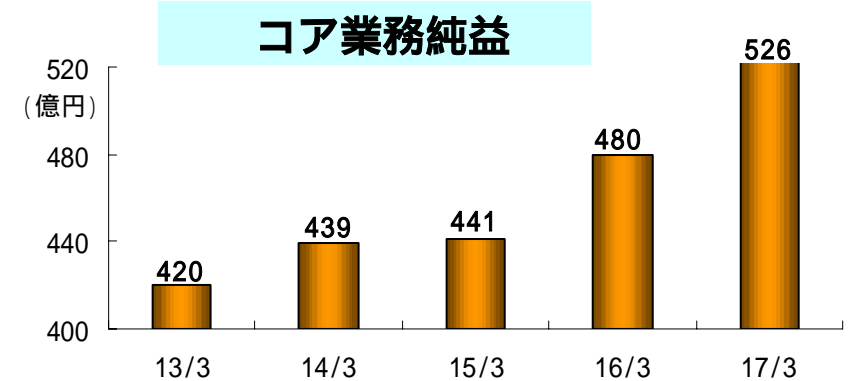
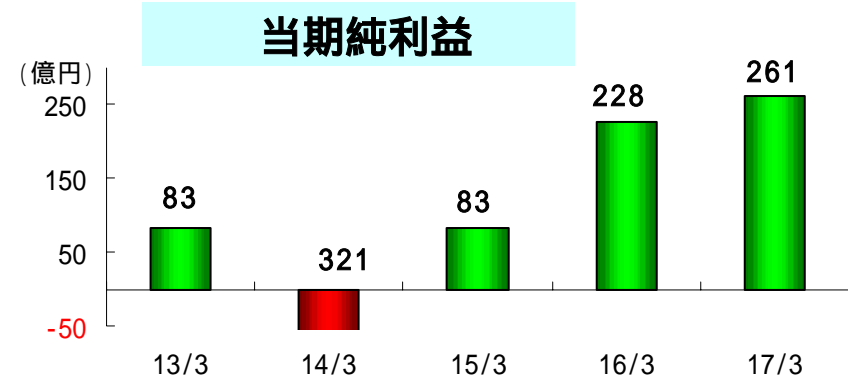
業績ハイライト

16年度の当期純利益は、与信費用および経費の大幅な減少により、前年度比14.4%増益の261億円（2期連続過去最高）となった。

コア業務純益は、有価証券運用利息の増加を主因に資金利益が増加したことに加え、手数料収入の拡大、経費の削減により前年度比9.6%増益の526億円になった。（過去最高を更新）

実質信用コストは大幅に減少し、巡航速度に入った。経費はシステム投資が一巡したことから減少した。

17年度は第9次中期経営計画のスタートにあたり、トップライン（業務粗利益）の増強に注力する。当期純利益については、収益力強化に向けた投資等を見込むことから、16年度比若干減少の240億円と予想。





目次

平成16年度決算概要	3
平成16年度決算概要	4
平成17年度業績予想	5
収益力の強化	6
堅調に増加する住宅ローン	7
住宅ローン獲得額の見通し	8
フィービジネスの拡大	9
法人貸出金平残の状況	10
法人向けフィービジネスの見通し	11
リレーションシップバンキング機能強化計画(平成15・16年度)	12
有価証券ポートフォリオのパフォーマンス向上	13
金利感応資産の状況	14
資産の質と効率性の向上	15
コア業務純益を大幅に下回る信用コスト	18
着実に減少した不良債権	17
経費効率の更なる改善	18

平成16年度決算概要



平成16年度決算概要

業務純益、経常利益、当期純利益ともに大幅に増加

(億円)	平成16年度	平成15年度	増減() 前期比
業務純益	490	473	17
コア業務純益	526	480	46
業務粗利益	1,182	1,202	19
うち資金利益	1,065	1,056	9
うち役員取引等利益	133	122	11
経費	692	712	20
一般貸倒引当金繰入	-	16	16
臨時損益	75	174	99
うち不良債権処理額	101	191	89
うち株式等損益	25	35	10
経常利益	415	298	116
特別損益	22	92	70
うち償却債権取立益	23	41	17
うち貸倒引当金取崩超過額	9	-	9
うち厚生年金基金代行返上益	-	60	60
税引前当期純利益	437	391	45
当期純利益	261	228	33

資金利益・役員取引等利益が
引続き増加。

信用コストにかかる経理処理について
16年度は、経理基準に従い、一般貸倒引当金取崩額
と個別貸倒引当金繰入額を相殺し、差額を特別利益
に計上。

	16年度		15年度
		前期比	
一般貸倒引当金繰入額	-	16	16
不良債権処理額	101	89	191
うち貸出金償却	80	27	108
うち個別貸倒引当金繰入額	-	76	76
償却債権取立益	23	17	41
貸倒引当金取崩超過額	9	9	0
合計	+ - +	69	98 167

	16年度		15年度
		前期比	
一般貸倒引当金繰入額	91	108	16
不良債権処理額	184	7	191
うち貸出金償却	80	27	108
うち個別貸倒引当金繰入額	82	6	76
償却債権取立益	23	17	41
貸倒引当金取崩超過額	-	-	-
合計	+ - -	69	98 167

平成17年度業績予想

5

業務純益500億円、経常利益400億円、当期純利益240億円を予想

(億円)	平成17年度 見通	平成16年度	増減() 前期比
業務純益	500	490	10
コア業務純益	500	526	26
業務粗利益	1,217	1,182	35
経費	715	692	23
一般貸倒引当金繰入 (A)	0	-	-
不良債権処理額 (B)	108	101	7
経常利益	400	415	15
償却債権取立益 (C)	20	23	3
税引前当期純利益	406	437	31
当期純利益	240	261	21

実質信用コスト (A)+(B)-(C)	88	69	19
---------------------	----	----	----

平成17年度 中間期見通	平成16年度 中間期	増減() 前年同期比
240	270	30
240	255	15
607	610	3
367	355	12
0	15	15
45	81	36
200	219	19
10	12	2
201	258	57
120	155	35

35	20	15
----	----	----

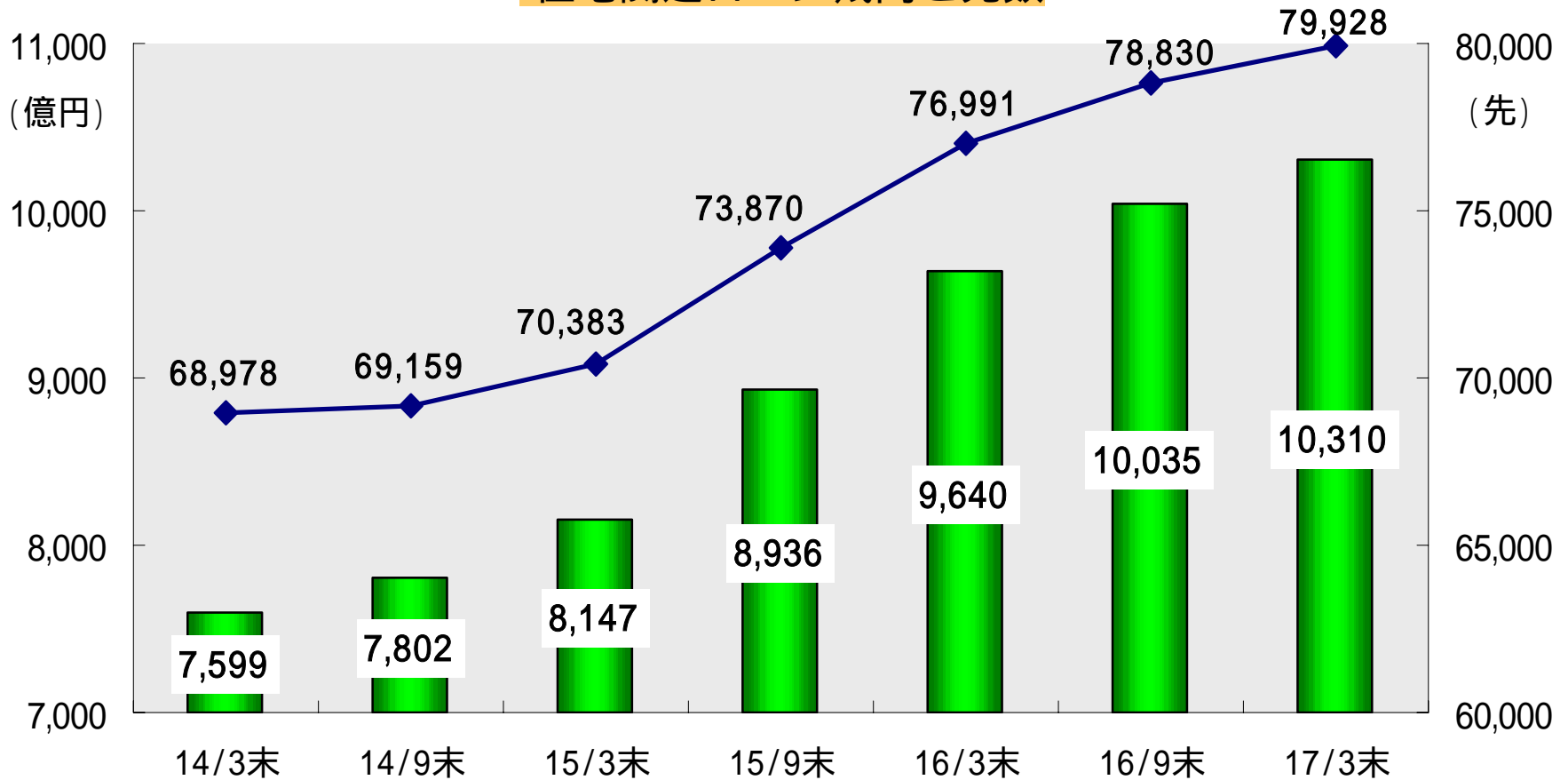


収益力の強化

堅調に増加する住宅ローン

住宅関連ローンは引続き堅調に推移。一段の拡大を目指す。

住宅関連ローン残高と先数

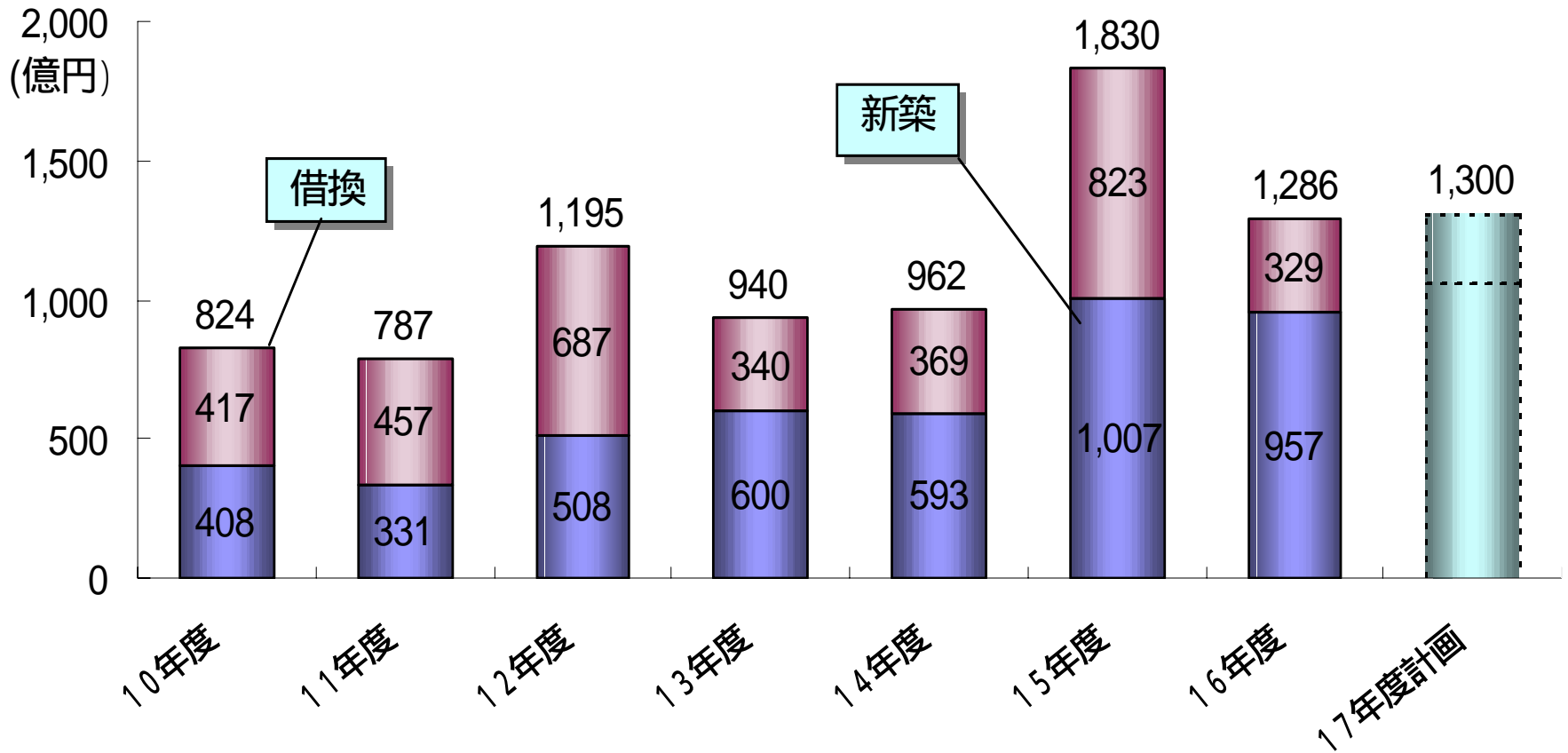


住宅関連ローン = 住宅ローン + アパートローン

住宅ローン獲得状況

引続き新築案件の獲得シェア向上を図る。

新築・借換案件の獲得実績推移

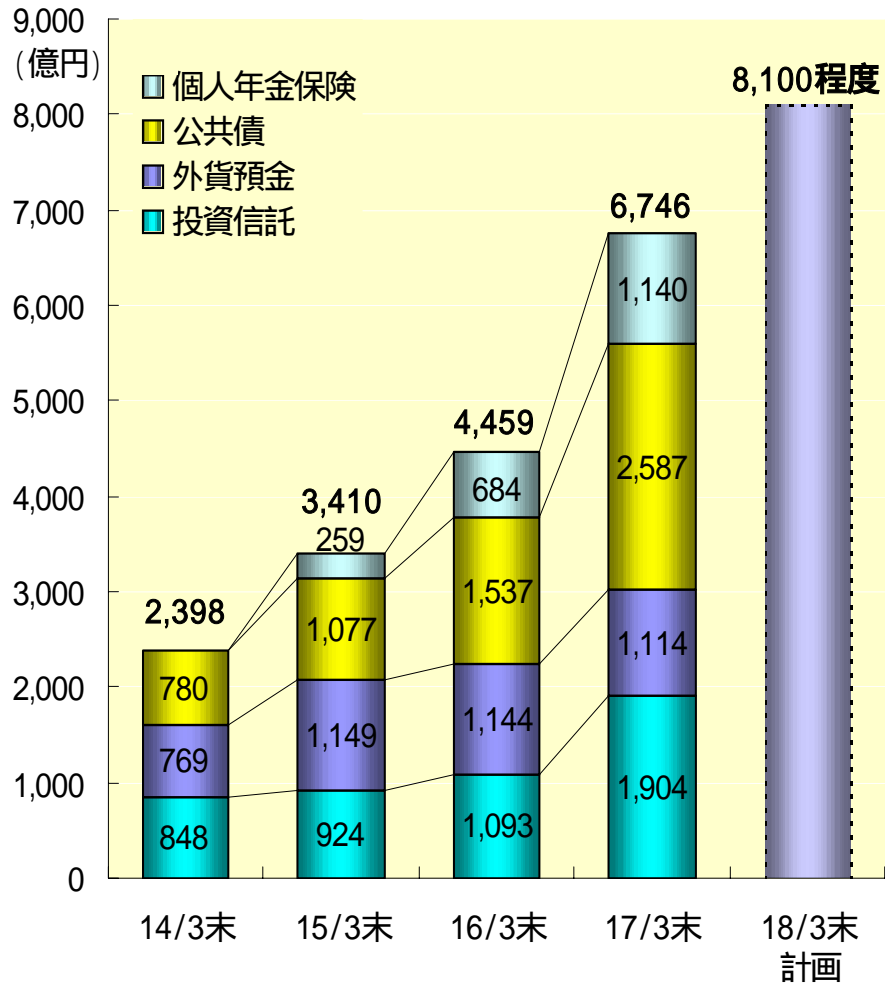


除くアパートローン

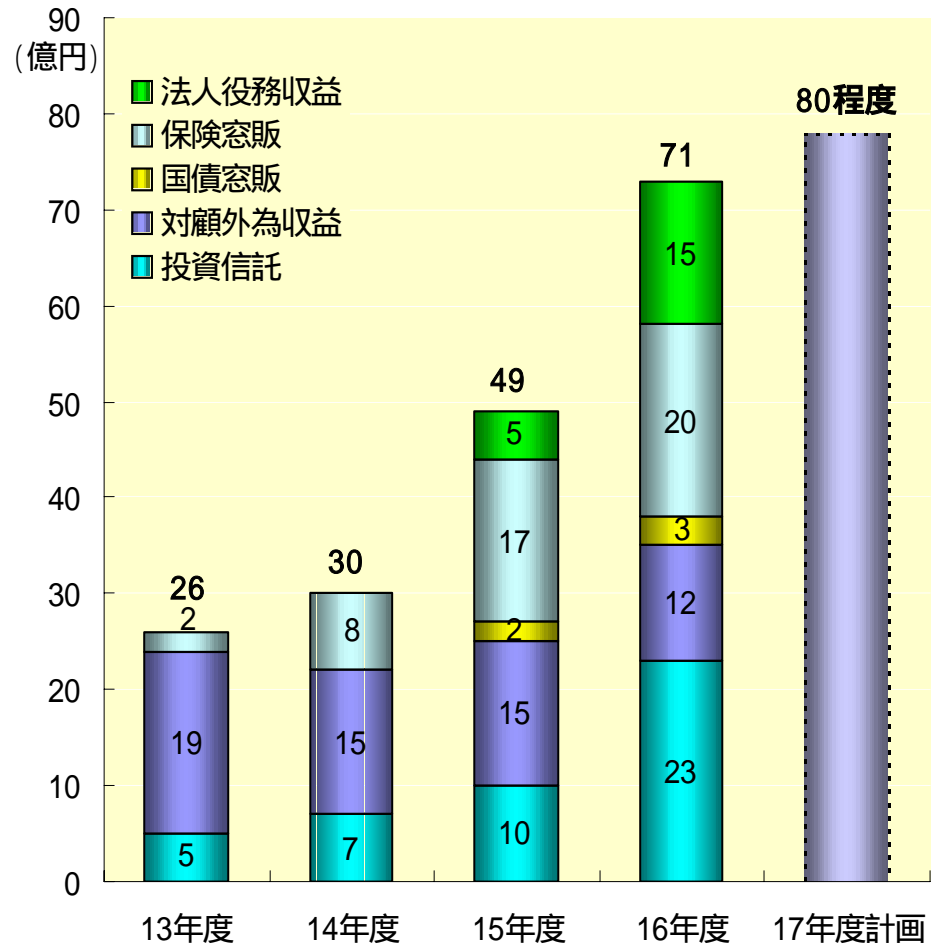
フィービジネスの拡大

預り資産残高は過去3年間で2.8倍に増加。手数料収入は2.7倍へ。

預り資産残高の推移



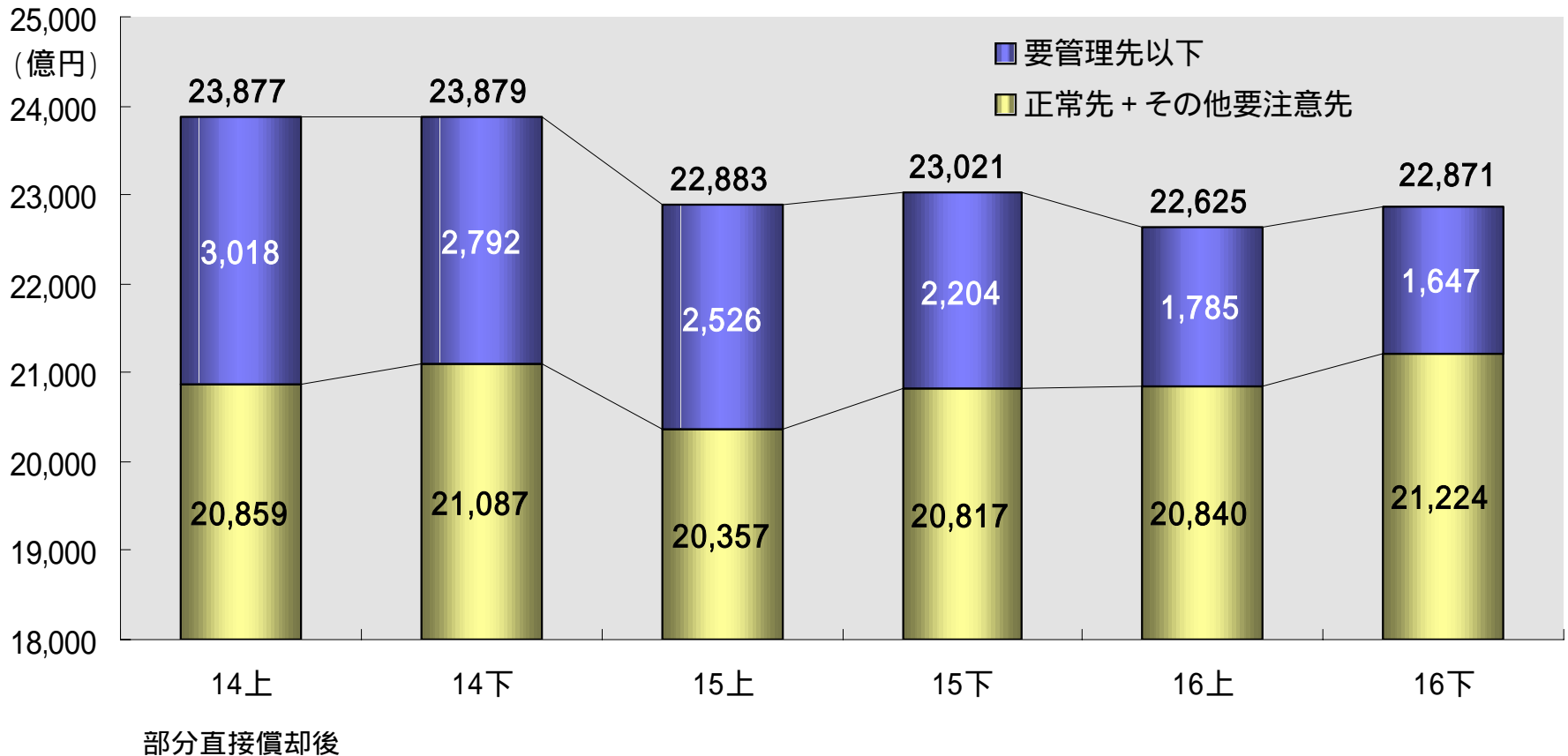
預り資産収益と法人役務収益の推移



法人貸出金平残の状況

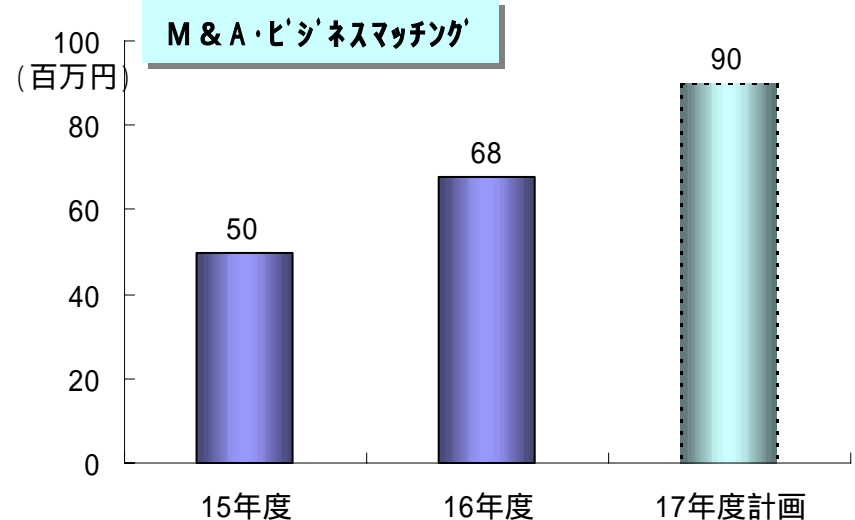
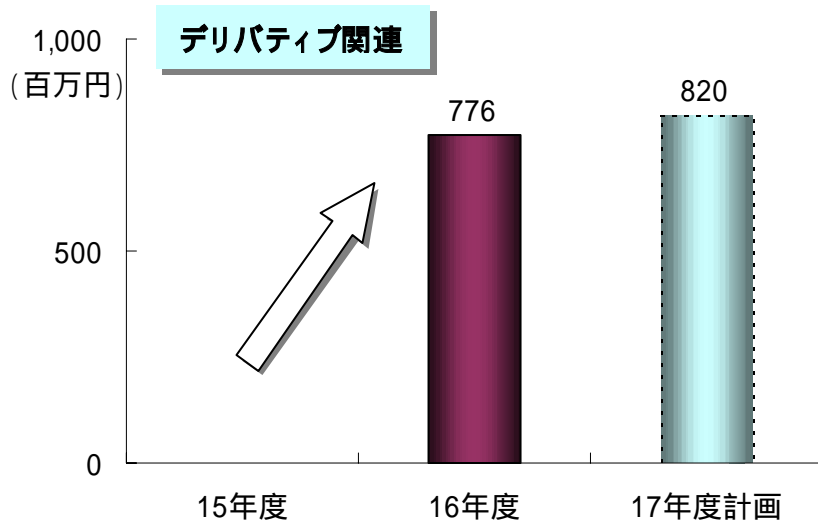
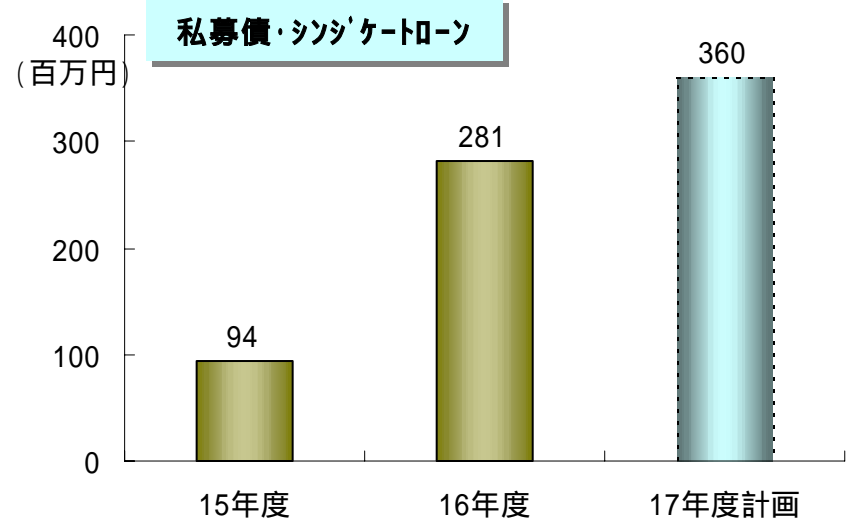
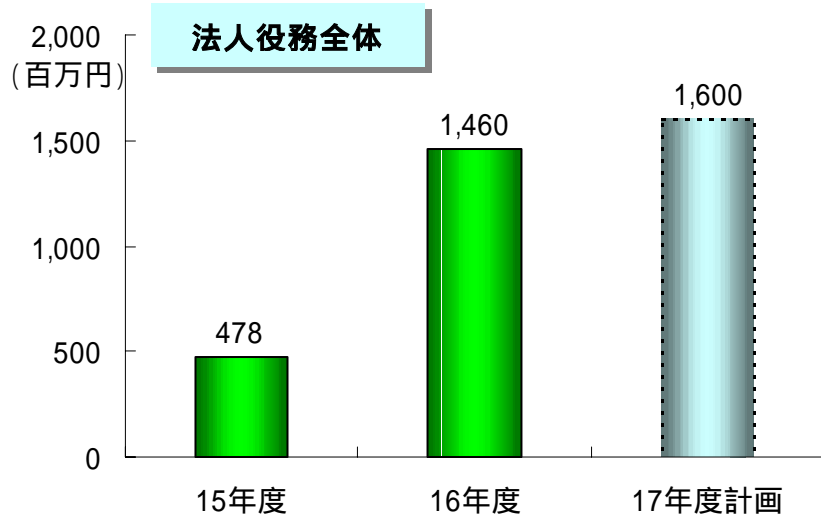
正常先とその他要注意先の平残は増加へ。
 要管理先以下に対しては引続き経営改善支援に注力。

法人貸出金平残の推移



法人向けフィービジネスの状況

役務取引への取組みを一層強化し、収益拡大を図る。



レ・ジョンシップ・バンキング機能強化計画(平成15・16年度)

創業・新事業支援機能等の強化

- 成長業種への対応強化 : 医療・介護関連業種を担当する専門チーム設置 開業支援、経営改善支援
アグリビジネス担当者配置 「食の商談会」開催、農家向けローン「大地」取扱い開始、支援セミナー開催
- 茨城県が主催する「いばらきベンチャー企業育成ファンド」の設立に参画、2億円を出資 茨城県内5社へ投資決定
- 業務協力協定締結、協調融資の実行やセミナーの共催等連携強化
日本政策投資銀行、中小企業金融公庫、商工組合中央金庫、農林漁業金融公庫、茨城県中小企業振興公社

お取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

- ビジネスポータルサイト「常陽ビレッジ」開設、契約先3,140社 ~ 各種相談受付、情報提供、ビジネスマッチング機能
- 「情報営業支援室」設置 ~ コンサルティング機能の強化、情報営業の強化、シ・ローンリードアレンジャー獲得(6件)
- 有料での顧客紹介業務「常陽ビジネスマッチングサービス」取扱開始、契約先36社 商談104件、関連融資53億円

新たな中小企業金融への取組み

- スコアリングモデルや信用保証協会の保証を活用した商品等の推進、私募債等資金調達手段の多様化を支援
- ⇒ 常陽スモールローン:72億円、ゼブリー:641億円、アクティブプラン21:483億円、財務制限条項付貸出:46億円(17/3未残)
- ⇒ 信用保証協会保証付私募債:27億円、銀行保証付私募債:51億円、売掛債権担保融資:73億円(15/4~17/3実行額)
- ⇒ 一括ファクタリング:契約2件、譲受債権残高39億円

お取引先企業の経営改善に向けた取組み

- 中小企業再生支援協議会との連携:再生計画策定10件、「中小企業再生支援融資制度」創設・活用:融資実行12件
- 茨城県等との連携により、企業再生ファンド「茨城いきいきファンド」創設、8億円出資、第1号案件への取組み
- 企業経営支援室・営業拠点の経営改善取組み先3,294先のうち、612先の経営改善・格付向上が実現

取組み成果、課題

- 法人向け貸出金(正常先+その他要注意先)残高増加、好調な新規開拓
- 私募債発行やM&A、デリバティブ商品販売、シ・ローンへの取組みなどソリューション営業拡大 役務収益増加
- 取引先企業の経営改善・格付向上、及び、当行資産の健全化 開示債権額減少、不良債権比率低下

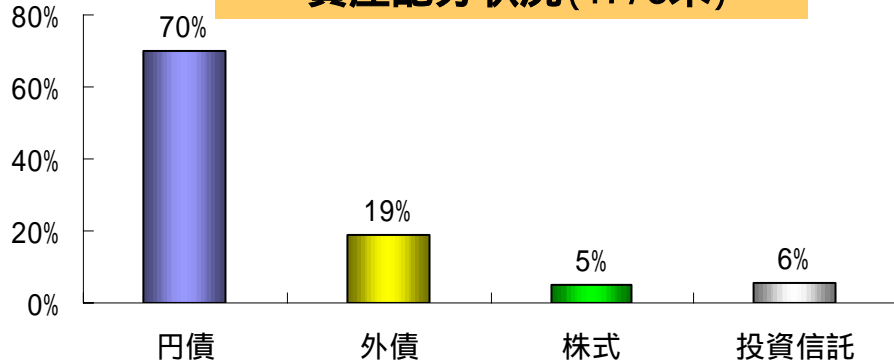
「地域密着型金融推進計画」において取組み継続 課題解決型営業の強化、取引の深耕・拡大 収益力・健全性向上 = 地域経済の活性化

有価証券ポートフォリオの状況

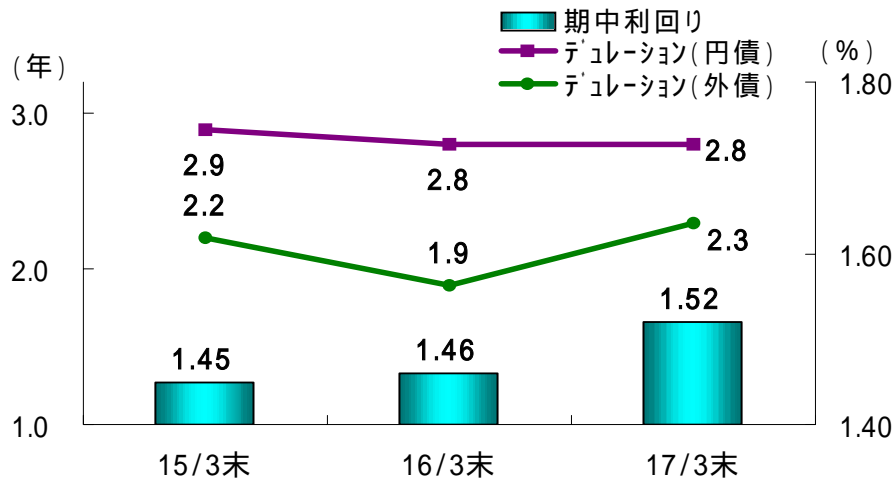
リスク分析、相関を踏まえた資産配分

利回り、評価損益とも良好。評価益は1,000億円台。

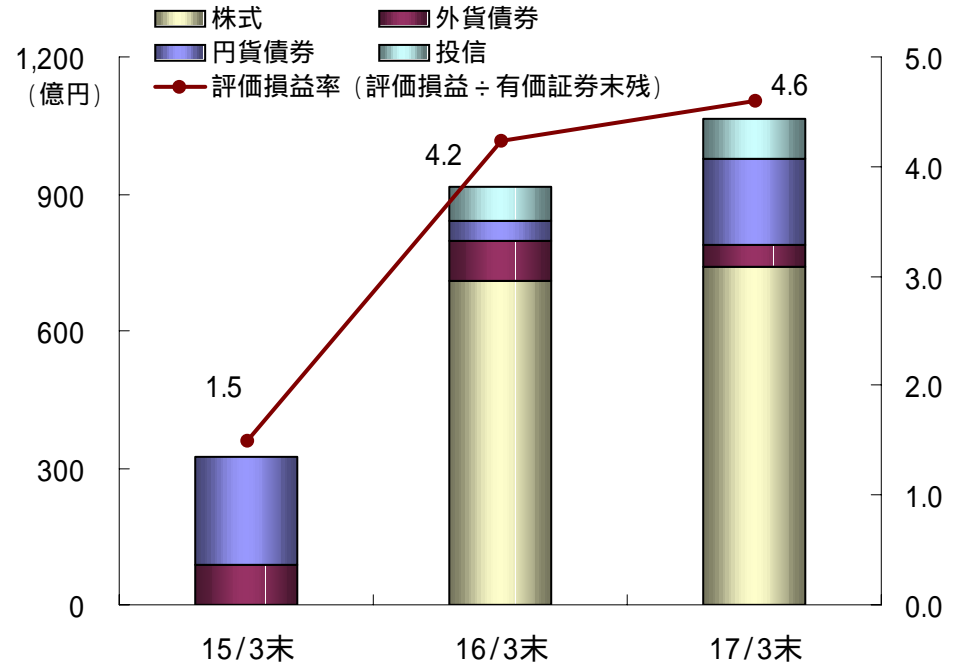
資産配分状況(17/3末)



有証利回りとデュレーションの推移



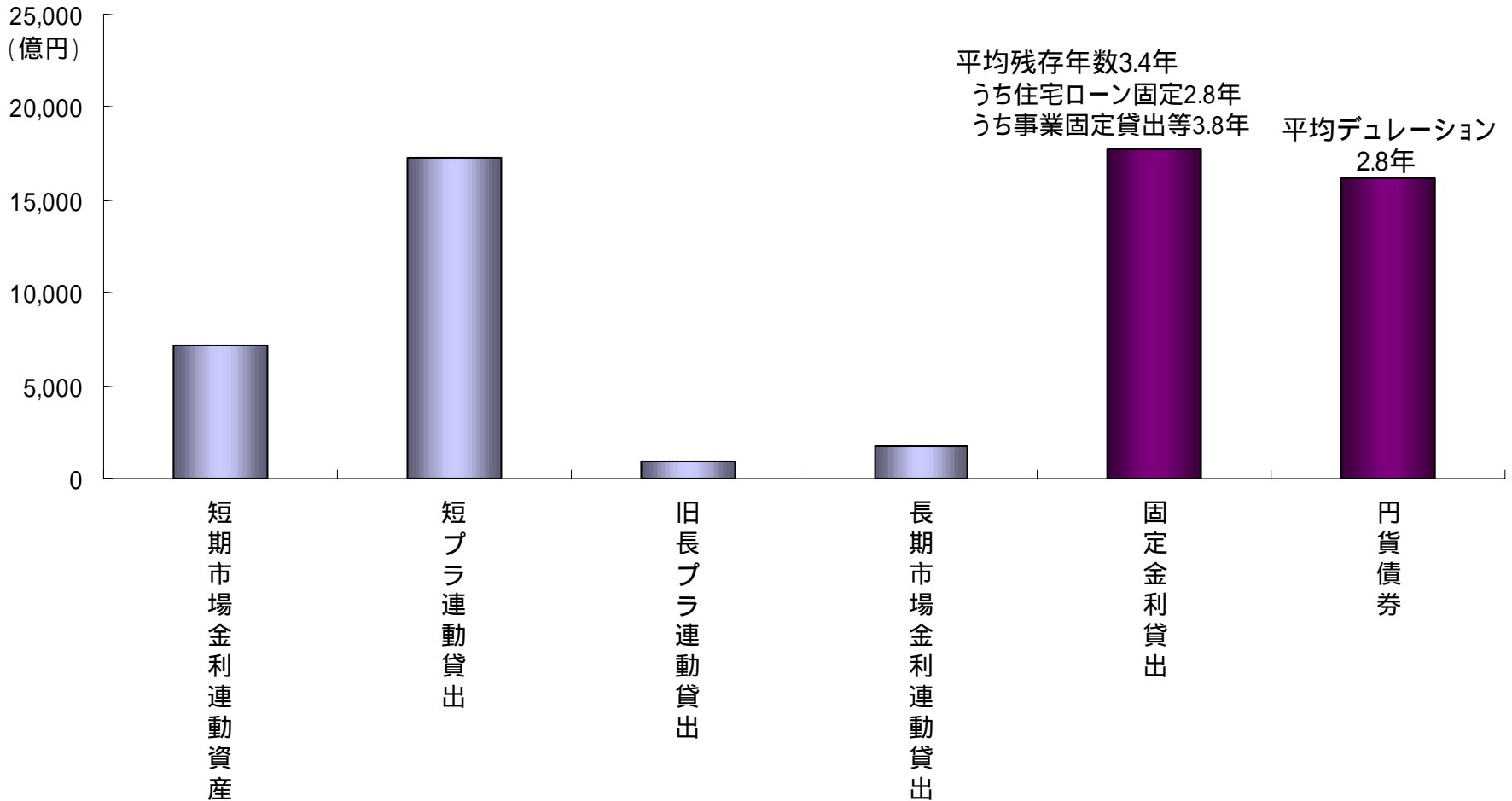
評価損益の推移



金利感応資産の状況

金利感応資産の約半分が固定金利だが、リスクコントロール可能な水準

金利感応度別資産残高 (17/3月月中平残ベース)





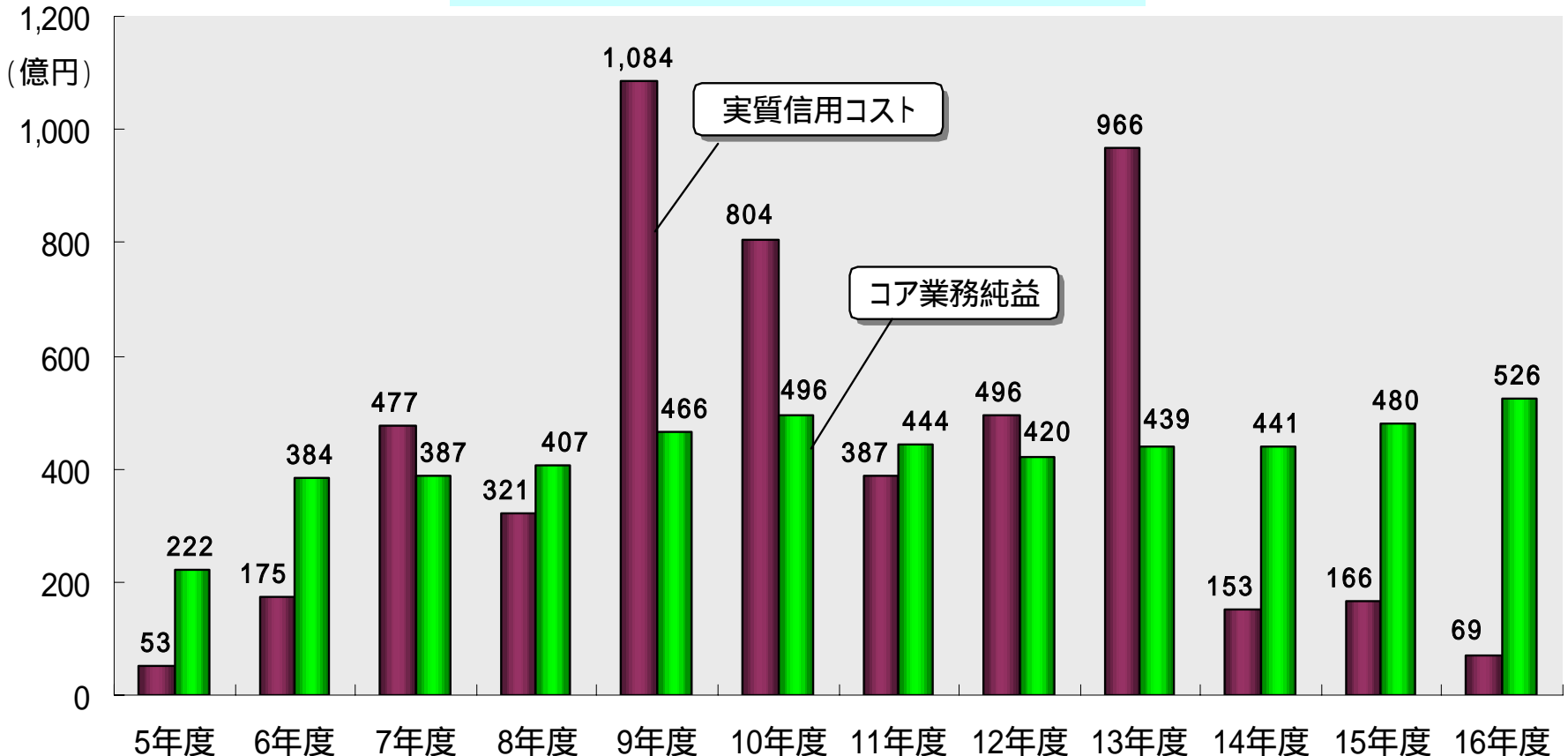
資産の質と効率性の向上

コア業務純益を大幅に下回る信用コスト

実質信用コストは14年度以降コア業務純益を大きく下回る水準に減少
 与信費用比率 15年度38bp、16年度16bp

$$\text{実質信用コスト} = \text{一般貸倒引当金繰入} + \text{不良債権処理額} - \text{償却債権取立益} - \text{貸倒引当金取崩超過額}$$

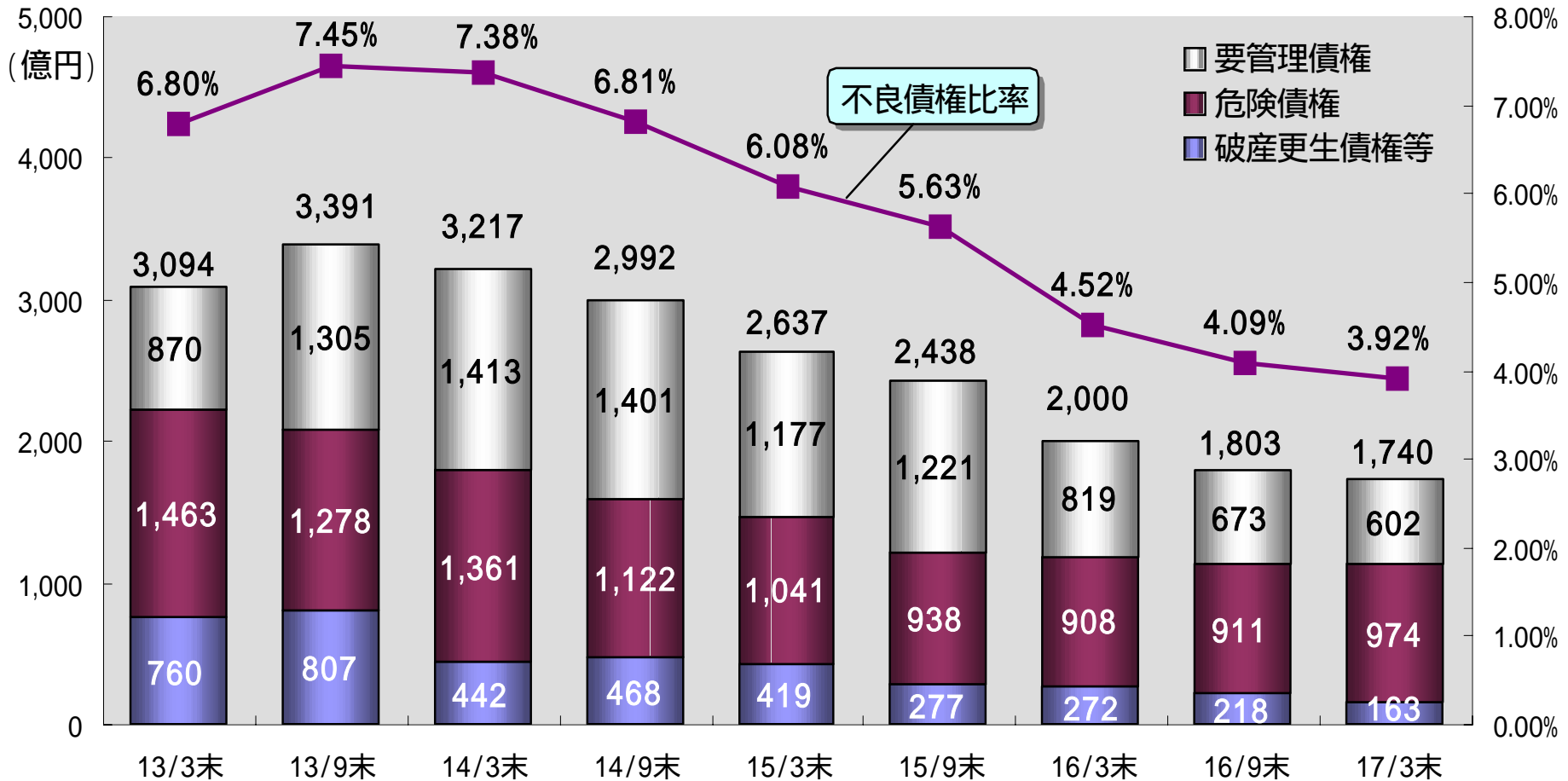
コア業務純益と実質信用コストの推移



着実に減少した不良債権

不良債権残高 1,740 億円、不良債権比率 3.92% を達成。

不良債権(金融再生法ベース)の推移

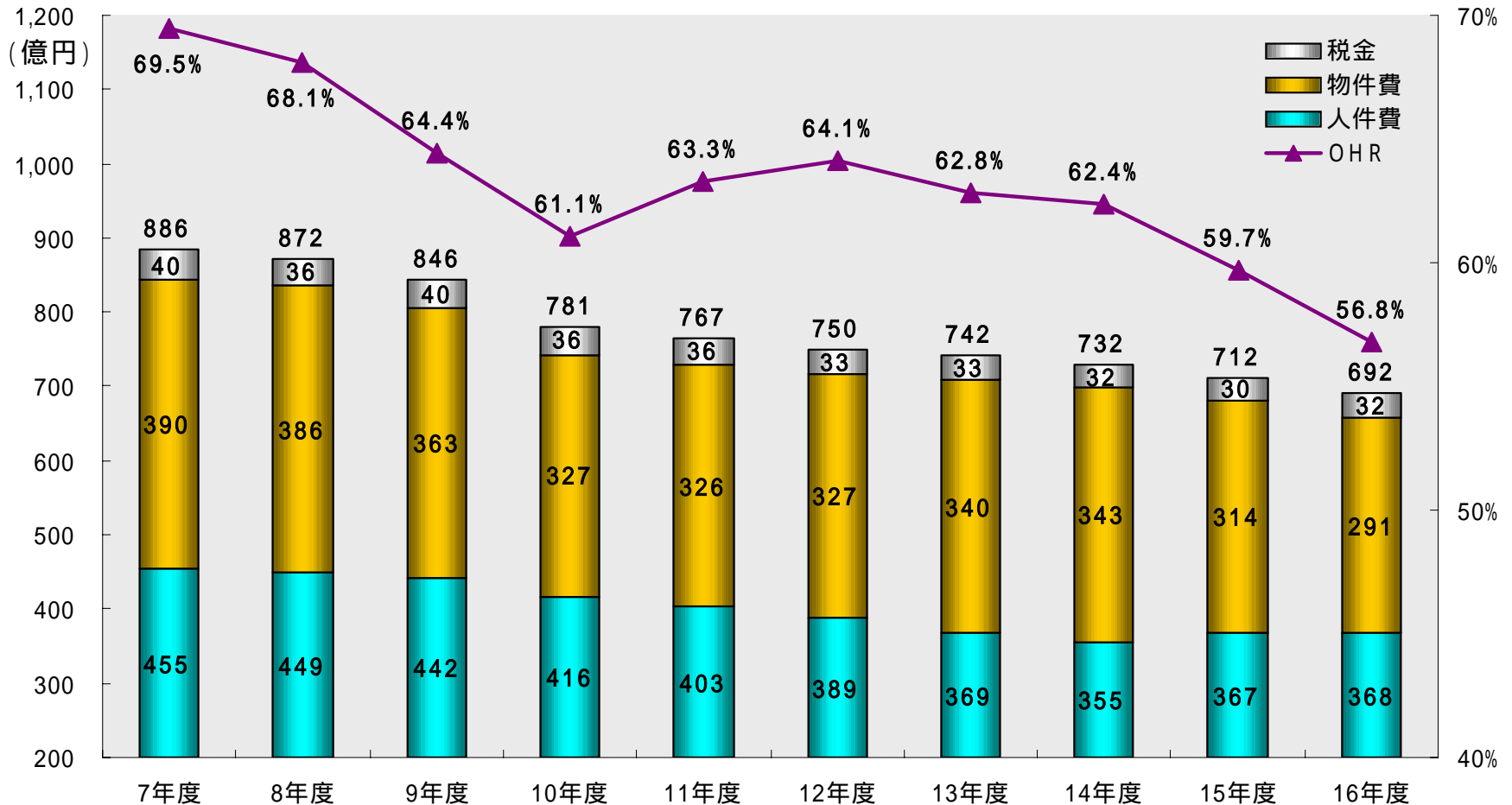


経費効率の更なる改善

業務粗利益の増強に加え、経費削減により更なるOHR低下を図る

経費、OHR の推移

() OHR: コア業務純益ベース





- 本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、経営を取り巻く環境の変化などによるリスクや、不確実性を内包しておりますことにご留意ください。

< 本件に係る照会先 >

株式会社 常陽銀行 経営企画部

T E L : 0 2 9 - 3 0 0 - 2 6 0 3

F A X : 0 2 9 - 3 0 0 - 2 6 0 2

E-mail: ir@joyobank.co.jp

U R L : <http://www.joyobank.co.jp/>